

同じ発音で、異なった意味を持つ言葉を同音異義語という。同音異義語で違う意味が一番多いのは「こうしょう」で、49 語ある。「こうし」は 42、「こうかん」は 26、「きかん」は 17 ちなみに一文字の漢字では、「しょう」は 89 文字、「かん」は 70 文字ありました。

そこで「こうしょう ・ ・ ・ ・ 」の同音異義語 49 語を使って無理矢理に文章を作ってみた。

士農工商という身分制度のあった江戸時代に化粧（化粧を施した）し巧笑する公娼がいたとされているが、高尚な趣味を持っている知識人を相手にするのだから、正確な時代考証をして、資料を作りたい。そのうえで、民間に口承された伝説を高声に口誦したい。

わが母校・静岡商高（高商）の校章を彫っていただこうと甲匠（具足師）の工匠に頼んだ。その材料は、鉱床から発掘された珍しい紅晶（紅色の水晶）を使ってもらいたい。

中国に高昌という国家、黄鐘という音名、交鈔という紙幣があったそうだ。天子を補佐する公相がいた。行省という行中書省の機関があったそうだ。

日本の平安時代（794 年～1185 年）中期に康尚、安土桃山時代（1534 年～1621 年）にも康正という仏師がいたそうだ。その康正という年号が室町時代（1455 年～1457 年・太田道灌が江戸城を築城した時期）にあった。巧匠（巧みな大工）が建てた円覚寺の僧・綱掌が打つ洪鐘の音（ね）を聴いた。煎茶に用いる釜敷を交床というそうだ。

高貴な貴族・高姓は、高蹤（高尚な行跡）を残し、翱翔（得意にふるまうこと）したという。海軍工廠の爆弾が破裂し負傷した降将（敵に投降した将軍）は、すでに交睫（目を閉じて眠る）して、白布の行障に覆われ葬送されたのだろうか。

宮中歌会始で講頌（うたいあげる役）が高唱（大声でうたう）に講誦（詩歌をよみあげること）した。厚相から論功行賞を厚賞いただけたことが自慢だ。

公務中に、犬に咬まれて咬傷したので、公傷扱いにしてくれと公証人に交渉したが、哄笑された。ああしようこうしょうと考えて、前章から後章までまとめて、文章を書いてみたが、時代の好尚に合わせ、後証のために広く皆に公称しようと思う。しかし、こんな文章が、多くの人に高承いただけるか疑問だ。

【口承】【口誦】【工匠】【工商】【工廠】【公相】【公称】【公娼】【公証】【公傷】【巧匠】
 【巧笑】【甲匠】【交床】【交渉】【交鈔】【交睫】【好尚】【考証】【行省】【行粧】【行障】
 【行賞】【厚相】【厚賞】【咬傷】【哄笑】【後章】【後証】【洪鐘】【紅晶】【校章】【降将】
 【高声】【高尚】【高姓】【高承】【高昌】【高商】【高唱】【高蹤】【黄鐘】【康正】【康尚】
 【鉱床】【綱掌】【講頌】【講誦】【翱翔】（49 語句・広辞苑より）

